

農作物技術情報 第9号の要約

平成30年11月29日発行

岩手県、岩手県農作物気象災害防止対策本部

作目	技術の要約
畑作物	<p>小麦：好天に恵まれ、生育は順調で、越冬前の生育量は十分に確保されている。雪腐病の発生量は「やや多」と予想されているので、雪腐病の常発地帯では、雪腐病防除を根雪前に行う。越冬後の融雪対策のため排水路の点検を行い、整備しておく。</p>
野菜	<p>寒締めほうれんそう：ハウスを開閉して生育を調節し、寒締め後は葉柄の Brix 糖度 8%以上であることを確認して収穫する。</p> <p>促成アスパラガス：萌芽開始後の温度・かん水管理を適切に行い、収量を確保する。</p> <p>冬春どり葉根菜類：厳寒期の生育促進と凍害防止のため、被覆資材を利用して保温する。病害対策として日中の換気等を実施し、湿度を下げる管理を行う。</p> <p>雪害対策：事前対策として、ビニール等被覆資材の補修やハウスの補強を行う。積雪中は、ハウス側面の除雪を行うとともに、施設内の温度を高めて積雪の自然落下を促進する。</p>
花き	<p>りんどう：促成・半促成栽培用ハウスは、事前に部材や被覆ビニールの損傷等を点検・補修する。</p> <p>小ぎく：極端な低温では凍寒害を生じるおそれがあるので、低温が予想される場合は不織布のべたがけなどで対策を講じる。</p> <p>雪害対策：降雪が続く場合は早めに除雪を行う。とくにハウス側面は雪の重みによる影響を受けやすいので、こまめに除雪する。</p>
果樹	<p>りんご：「ふじ」等の晩生種は、収穫時に硬度が低い傾向があったため、貯蔵後販売する際は果肉の状態を随時確認し、注意して販売する。</p> <p>果樹全般：ネズミ、ニホンジカなどの獣害対策、若樹の凍寒害・雪害対策に努める。</p>
畜産	<p>牧草・飼料作物：日頃から作物の生育をよく観察し、土壌分析を実施して土の状態を確認する。土壌診断結果に基づき、肥料が牧草や飼料作物に効率良く効くように、pH 矯正等を検討する。</p>

詳細については「いわてアグリベンチャーネット」をご覧ください。<http://i-agri.net/Index>（「いわてアグリ」と検索すると上位に表示されます）

農作物技術情報の本年度定期発行は今号で終了となります。